

# 中田かわら版 1月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■年頭所感

### ～更なる適応と改革～

中田地区経営委員会  
委員長 井上昌司

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃は、当委員会の取り組みにご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本誌の「中田かわら版」は、委員会設立時からの広報活動です。毎月ご拝読頂きまして、誠に有難うございます。なお、昨年5月の書面総会以降、令和4年度は役員会も中止にすることなく「更なる適応と改革」を念頭に置き、地域住民や諸団体が互いに連携をとり、中田地区のシンクタンクとして魅力ある町づくりにするための課題に取り組んでおります。



深谷通信所跡地利用の委員会では、横浜市基本計画書に掲載されている見晴らしの丘に、第2弾として代々木公園同等の野外音楽堂（野外ステージ）の設置を中田地区から要望するため10月11日に見学会を実施致しました。次世代の子ども達に音楽を通して夢と感動が共有できるスペースの必要性を泉区対策小委員会そして対策協議会に報告させて頂きました。最終の都市計画決定が令和5年度なので、その期間中に環状3号線の早期実現も目指して出来るだけ早く協議していきたいと思っております。

長引くコロナ禍に於いて生活様式が一変し、更には大きな転換期ともいわれる時代の変化に対して、当委員会では一部の委員会や部会を廃止してプロジェクト制の移行に向けて動き出しています。当委員会も平成20年に設立して14年が経ちましたが、行政と協議して取り組む課題は多様化しており、また短期間で解決をしなければならない喫緊の課題等も増えてきております。そこで、その目的を早く達成させるためにも今回必要に応じて設置しやすいプロジェクト制を導入した次第です。

現在「次世代に魅力ある環境作り」と題して3つのプロジェクトの準備に入りました。

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| ① (仮称)深谷通信所跡地利用プロジェクト     | リーダー 桜井 誠  |
| ② (仮称) マーチングバンド地域移行プロジェクト | リーダー 齋藤 信幸 |
| ③ (仮称) 地球と子どもを守るプロジェクト    | リーダー 猪俣 武雄 |

今後も時代の変化に適応した中田地区の振興と活性化を図り、次世代に引き継ぐ魅力ある町づくりを目指して参ります。本年度も引き続きまして、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

～一人ひとりがCO2を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

## ～かまくら道に四季の花～ 「フラワーアーク」

「社会福祉法人開く会」の花を生産・販売する事業所として2022年4月1日オープン。かまくら道沿い瀬谷方面に向かって泉郵便局の反対側、目印は鮮やかな青色のおしゃれな建屋。そこからずっと奥に広がり約4000㎡の広大な農地に2連棟の大きなハウスが敷地の真ん中に建っている。広いハウスの中には、台の上にびっしりと色とりどりの花苗のポットが並んでいて圧巻だ。



お仕事をされている皆さん はい、ポーズ



所長 中江 博章さん

取材の時はパンジーとビオラ。外の花苗のポットはこれまた太陽をいっぱい浴びて幸せ満開に咲き誇っている。どの台も色美しく見ているだけで心が躍る。お仕事をされている方は34人。男性27人、女性7人と圧倒的に男性が多い。皆さん生き生きと楽しそうに作業を進めている。定休日なしの年中無休だが、7月から8月後半にかけての暑い時期ハウスの中では花苗育成は減少しており、専ら秋冬の花苗栽培で使用する用土づくりに力を入れているようだ。良い花は良い土で育つことを教えていただいた。四季折々の季節的な花鉢は年間大きく分け30種類ほど。毎月の寄せ植えのリースや花壇の管理も行っている。お散歩の折には、是非足をのぼして花畑を楽しみながら購入もできるので、お出かけしてみたいはいかがでしょうか。

(小島敏子)

<フラワーアーク> 泉区中田町 2752-1 電話番号 045-435-9270 営業時間 9:30~15:30

### ■年頭に当たって 宮田 貞夫

「<sup>こぞ</sup>去年今年 貫く棒の 如きもの」(高浜虚子)

「飾り気のない大胆な表現だが新年の句に相応しい清々しさを持つ。『歳時記』から拾った句だが、私の好きな句である。米寿を迎えた現在、私の人生コースからは最後の4周目を過ぎたところだと思って頑張りたい。

「かわら版」は平成22年(2010年)7月号(No.38)から「中田地区経営委員会」の広報部門を担うことになった。それ以前は「中田の福祉と健康を考える会」だった。編集方針も対象も広くなり、これを契機に「かわら版」も一大飛躍した年であった。中田の歴史(いま、昔)、「この人に会いたい」やイベント、施設訪問など活躍する場が増えて行った。幸い、経営委員会は我々の仕事に理解を持ち自由にやらせてくれたことに感謝している。

「脱炭素」「地球温暖化の削減」問題や次世代への魅力づくり(3つのプロジェクト・詳しくは1面参照)など「経営委員会」が取り組む問題は多い。住民にとって身近で重要なニュースに解説を加え伝えていきたい。「かわら版」は中田のあらゆる記録を後世に残す文化の担い手として重責を果たしていきたい。同じ棒なら骨太の棒でこの1年を目指していきたい。よろしく願いいたします。(編集後記にかえて)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、鈴木賀津彦、嶋 宏之